

すべての
人間関係は
「相手に
期待しない」
「相手を変え
ようとしない」
の修行です。

齊藤一人
(実業家・著述家)



参考図①リアルマタギさんと弟子

事あるごとに、妻のマタギルックを否定し続けてきました。そして最終的には義理の母にも連絡して、あのマタギシャツをどうにかするように言ってくれないか、と直訴した事もありました。

しかし、この齋藤一人さんの文章がSNSにおっこちていて、それを見たときにはおっこちしました。あ～私はこのマタギさんを変える事をしちやいけいないんだな。これは修行なんだな、という事に気が付きました。

そうなんです、やはり、この一人さんの言っている、“すべての”というのは、べつに子供だけをさしていたり、特定の人の事を言っていません。子供だったり、パートナー、親、すべて関わる人を指しています。

ですから、私はそれに気が付いたその日から、妻のマタギシャツについてはいっさい触れないように生きています。

お子様にしてもそうです、なかなかその子の性格は変わりません。親がいくらいつても変わらないんです！と言ってる方、それは無理に変えないでくださいな。

私の失敗話をします。

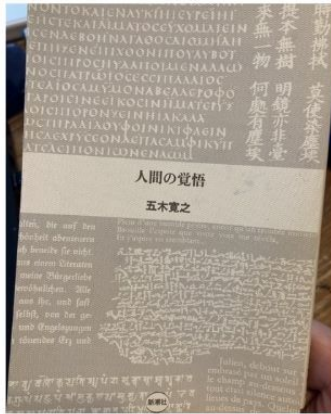
子供たちにはだいたいこういう気持ちで接しております。できるだけ子供たちのありのまま、子供たちの話を聞いて、やりたい事があるならそれを伸ばす、それが大体私のやり方なんです。が。やはり近い相手にはどうもうまくいかないのが人間ですよ。はい、そういうもんです。

私の最近の失敗話といいますか、この文章を読んで気が付いた事をお話しましょう。それは私の妻の事なんです。が、この冬の初めから、ですが、うちの妻の家着が“超変”、なんです。どう変かといいますと、一言でいうと、マタギ、みたいなかつこを家着として着ております。

茶色もしくは黒色を主体とするチェック柄のよれよれシャツ、そして黒いダボっとしたGパン姿なんです。どうもこの冬の初めからその恰好が気に入ったみたいなんです。私はその恰好が気に入らないので、事あるごとに、マタギさん、おはようございます。とか、そのマタギシャツ、いかしてるね、等の皮肉を浴びせかけ、

チャレンジニュース

おすすめの本



積ん読（つんどく）ってご存じですか？

本を読んだあと、積み上げて一度に平行して何冊も読むのが”積ん読”、です。子供って、親がどんな本よんでるか、とか、どんな本が面白い本なのかっていうのがわからないんですよ。積ん読をする事によって、親が読める本がどんなものか、そもそも親が、本を読みなさいってってるけど、親が読んでないと読まないですから、それも含めて、積ん読はいいですよ ^ ^

さて、今月のおすすめの本は、五木寛之さんの、人間の覚悟、という本です。大河の一滴で有名な方ですが、私は他の本も、10年ぐらい前から読んでいます。この本も実は初めて読んだのは10年程まえだったのですが、最近気になって読み返しました所、全然意味が違ったり、改めて味わえたり、という所があり、新鮮な感じで読み返しております。

この本の中に、こんな一節があります。”君子は悒（ゆう）を備える”という考え方が中国にはありません。鬱をこの字にあてた時もあったそうです。

悒とは、辞書的には”ところがむすぼれて平らかではない”、という意味だそうです。しかし、作者が言う悒、とは例えば自然の美しさや素晴らしい芸術に触れて単純に感動したり、うれしい事があって飛び上がって喜んでいる状態というのは人としてまだまだだ、というのです。

そういう喜びや感動の背景に、すっと一はけ、墨を刷いたように何とも言えぬさみしさと哀愁が常に漂ってこそ人間的な感動なのだ、という事だそうです。

気分的な鬱やそういう状態の時、すぐさま病気だと判断して薬をのんでみたり、色々に対応したがるのが現代人の習性ですが、古来人間はそういう、うっとうしい気持ちというのが心に住んでいるのを前提として生きてきた、という事ではないか、と思います。それは大人も子供も同じです。子どもだって、悒はあります。子供が機嫌がわるい時はああ、いまこの子は悒なんだなと思って、いたわってあげてくださいね。